

令和5年度第1回社会環境づくり部会 摘録

日 時 令和5年7月26日（水） 10：00～12：00

場 所 職員会館かもがわ 第1会議室

出席者 石塚委員、長岡委員、藤野委員、横井委員、芹澤委員、有原委員、渡邊委員
（7名）

欠席者 石垣委員、稲川委員、田中委員、藤本委員（4名）

次 第

1 開会

2 部会員の紹介等

資料1	次期経計画策定に向けた調査について（1 本部会（社会環境づくり部会）について）
-----	---

3 議題

次期計画策定に向けた調査について

資料1	次期計画策定に向けた調査について
資料2－1	今回調査票案（家族や家庭生活のあり方に関する調査）
資料2－2	〃 （ひとり親家庭に関する実態調査）
資料2－3	〃 （子育て支援に関する市民ニーズ調査（小学生））
資料3－1	社会環境づくり部会対象調査
資料3－2	調査項目比較一覧表

4 閉会

（参考資料）

- 1 京都市はぐくみ推進審議会条例・施行規則・運営要綱
- 2－1 前回調査票（家族や家庭生活のあり方に関する意識調査）
- 2－2 〃 （ひとり親家庭に関する実態調査）
- 2－3 〃 （子育て支援に関する市民ニーズ調査（小学生））
- 3 前回調査結果
- 4 京都市はぐくみプランに基づく取組の進捗状況（令和3年度）

司会	京都市はぐくみ推進審議会令和５年度第１回「社会環境づくり部会」を開催する。 本日の会議については、市民に議論の内容を広くお知りいただくため、京都市市民参加推進条例第７条第１項の規定に基づき公開することとしている。あらかじめ御了承いただきたい。 それでは開会に当たり、藤野部会長から御挨拶を頂戴する。								
藤野部会長	御多用の中お集りいただき感謝する。 当部会では、次期計画のためのアンケート調査うち３つについて審議するが、こういうマクロ的な調査は、今後行政施策のＰＤＣＡサイクルで回していくうえで、重要な資料となる。 私自身こうした社会調査を専門としているが、アンケート調査は言葉ひとつの捉えられ方で回答も変わり、作成の難しさを感じている。 委員の皆様には、専門的な立場からは元より、一市民としての立場からも、忌憚のない御意見を頂戴したい。よろしくお願いします。								
司会	次第２「部会員の紹介」に移らせていただく。 (委員紹介) 「京都市はぐくみ推進審議会条例施行規則」第４条第３項において、当部会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができないこととされているが、本日は、委員１１名中７名の方に御出席いただいているため、当部会が成立していることを御報告申し上げる。 ここからの議事進行については、藤野部会長にお願いします								
藤野部会長	それでは、議事に入る。 まず、議題（１）次期計画策定に向けた調査について整理していく。事務局から説明をお願いします。								
事務局	【家族や家庭生活のあり方に関する調査について】 今回調査及び調査票案について、主に <table border="1" data-bbox="371 1731 539 1910"> <tr> <td>資料２－１</td> <td>今回調査票案（家族や家庭生活のあり方に関する調査）</td> </tr> <tr> <td>資料３－２</td> <td>調査項目比較一覧表</td> </tr> <tr> <td>参考資料２－１</td> <td>前回調査票（家族や家庭生活のあり方に関する意識調査）</td> </tr> <tr> <td>当日追加資料</td> <td>委員事前意見シート</td> </tr> </table> を用いて説明。	資料２－１	今回調査票案（家族や家庭生活のあり方に関する調査）	資料３－２	調査項目比較一覧表	参考資料２－１	前回調査票（家族や家庭生活のあり方に関する意識調査）	当日追加資料	委員事前意見シート
資料２－１	今回調査票案（家族や家庭生活のあり方に関する調査）								
資料３－２	調査項目比較一覧表								
参考資料２－１	前回調査票（家族や家庭生活のあり方に関する意識調査）								
当日追加資料	委員事前意見シート								

藤野部会長	ただ今の事務局からの説明について質問はあるか。
石塚委員	この設問数での回答率が気になる。ひとり親など、日々の生活で大変な方々がどれだけ答えてくれるだろうか。 また、前回調査では、各調査間で回収率にばらつきがあるようだが、要件等で何か違いがあるのか。
事務局	前回調査は、住民基本台帳からの無作為抽出により対象者を選定して調査票を郵送・回収しており、調査方法に違いはない。
藤野部会長	回収については、今回オンライン回答が可能となり、改善されるようだ。対象者の抽出は行政区等の条件もあるのか。
事務局	各行政区の人口比率に応じた対象者数を選定するようになっている。 回答率の差は、調査対象者の年齢や属性により、行政施策等への関心度に差があるものと推測される。
藤野部会長	無作為抽出であるから回収数400は妥当であると考えている。ただし、回収率が低くならないよう注意が必要である。また、今回初めて導入されるオンラインでの回答率の状況も確認していく必要がある。
石塚委員	公共施設に来所された家族連れ等を対象に、待ち時間にアンケートをとる等の方法はとれないのか。
藤野部会長	その方法では対象者を作為的に選択していることになりかねない。 量的な調査と質的な調査では目的が異なり、市全体としての意見を調査したい場合は、無作為抽出のアンケートとする方が適切である。 不可視化されていて分からないところは、実際に施設や団体に出向いての聞き取り等による調査が必要だと思う。
石塚委員	文字の多い資料はあまり目を通さない方も多い。そうした方達の意見も拾うことができればよい。
事務局	このアンケート調査は無作為抽出により実施する予定だが、こども基本法等にもあるとおり、子ども若者本人らへの意見聴取も今後行っていく予定である。どのような形での意見聴取が有効であるかなど、御意見を頂戴できればありがたい。
藤野部会長	前回調査から設問数を削減したほか、質問内容を改善したものはあるのか。

事務局	基本的には前回調査と同じ内容となっているが、一部、調査対象者へ聞きやすいよう、内容を統合した設問もある。例えば、少子化に関する設問が該当する。内容として足りないと思われるもの等があれば御意見をいただきたい。
藤野部会長	結婚についての設問の中で、「入籍」という言葉を使用してよいか気になる。「法的な婚姻関係にない」という言い方をすることはあるが、特に行政の資料上では、表現として避けた方がよいように思うが、いかがか。
有原委員	性別を問う設問については「男性・女性・答えたくない」となっているが、他の色々な調査を見ると、「答えたくない」の部分を「その他」や「無回答」としているものもある。前回調査との連続性や他調査票との兼ね合いを考慮しながら、ソフトな表現も検討していただきたい。
事務局	調査票によってはそもそも性別欄がないものもある。表現を含め、修正を検討させていただく。
藤野部会長	出産についての設問（問８～問１１）は、質問内容を混同する人が非常に多いため、表現には特に気をつけなければならない。今回、４００とサンプルサイズが少なくなっているため誤回答がないように正確に聞く必要がある。 【以下、指摘】 ・問８と問９の混同を防ぐため、問９に「今後、」を追記してはどうか。 ・問９と問１０の混同を防ぐため、表現を工夫する必要あり。 （国立社会保障・人口問題研究所は同内容を聞くとき、「あなたの考える理想的な子どもの数」としている。「理想」はなんの制約もない状態で最も望ましい状態） ・問１１は「現実にいる子ども数、もしくは持つ予定がある人」に対しては分かりづらいため、「あなたが実際に持つ（つमोरの）子どもの数は理想と比べて～」等にしてはどうか。 ・問１４は「理想の子ども数をもつには～」としてはどうか。 （そもそも子どもを持つことや子どもを何人、いつ持つかなどは個人の自由な選択である。少子化対策という言葉は抽象度が高く、また政策的なコントロールという印象も持ちかねない。個人、自分自身のこととして考えてもらった方がよい）
事務局	ご指摘を踏まえ、修正を検討させていただく。

事務局	【ひとり親家庭に関する実態調査について】 今回調査及び調査票案について、主に 資料２－２ 今回調査票案（ひとり親家庭に関する実態調査） 資料３－２ 調査項目比較一覧表 参考資料２－２ 前回調査票（ひとり親家庭に関する実態調査） 当日追加資料 委員事前意見シート を用いて説明。 →その後、事前意見について渡邊委員より説明。
芹澤委員	この調査票はゆめあすが出てくるが、ひとり親の家庭は、ゆめあすだけでなく、他の事業者のサービスを利用されている方も多くおられるため、ゆめあすのこのことを聞いてどれほど意味があるか分からない。 児童福祉法が改正されるなど、国からの子育て世帯への支援がより強く要請される中で、社会福祉法人やNPOに触れず、一行政サービスの認知度のみを聞いても、片手落ちの内容になってしまうのでは。 どのような経済的支援や地域支援を利用しているかなど、生活基盤に近い部分も聴取する必要があると思う。
事務局	ゆめあすは市の施策として確認したいポイントでもあるため、設問として引き続き設けさせていただきたいが、その他の支援の利用状況についての設問の設置を検討させていただく。
芹澤委員	はぐくみ室を含めて、行政サービスだけでなく、民間のサービスも活用し、子育て世帯に支援を届けていく流れになるようにすべき。 また、事前意見にも記載したが、国の調査で母子世帯の２０％超、父子世帯の４０％超が気軽に相談できる相手がいないと回答している。産休や育休の普及もあって、保育園などの専門機関に頼らずに地域で子育てする世帯が増えている中で、身近な専門家のサポートを受けられる体制が必要だと考える。 京都市で未就園児の利用が多い施策としては「つどいの広場」があると思うが、そこでの相談内容等のデータがあれば、今後必要な施策の検討に役立つのではないかと。
事務局	未就学児用のニーズ調査や母子保健に関する意識調査については、相談先に関する設問を設置している。 つどいの広場は施設からの実績報告書を確認し、必要に応じて施設から聞き取るなどして状況の把握を進めていきたい。
藤野部会長	問１４の冒頭に、「使用している支援全般に関する設問」の追加、また追加質問も調査横断的に入れることができないか検討をお願いします。

有原委員	問５に関しては、実家や養育費の金額が大きいため仕事をする必要のない方々もいるので、そうした選択肢の追加を検討願いたい。
芹澤委員	現行案では廃止となっている「ひとり親家庭になった理由」の設問が悩ましい。最近は人工授精の利用やＳＮＳでの出会いの増加等により、未婚の人が急激に増えており、ひとり親となった背景を聞く設問は残してもいいかもしれない。
石塚委員	ひとり親家庭という言葉がネガティブな印象があるが、選択的にひとり親となる「積極的なひとり親」という方も増えている。家族の在り方が多様化する動きも踏まえて調査を考えなければならない。
事務局	出会い方の変化については「家族や家庭生活のあり方に関する調査」と「ひとり親家庭に関する実態調査」のどちらで聞くべきか。
藤野部会長	本来は「家族や家庭生活のあり方に関する調査」で聞くべき内容だと思う。家族の多様化や生殖医療技術の進歩が急速に進展しているため、今後の施策を考えていくに当たって、ひとり親となった理由を聴取することは長期的な観点から重要なことかもしれない。
芹澤委員	出会い方の変化については「家族や家庭生活のあり方に関する調査」と「ひとり親家庭に関する実態調査」の両方で聞くことができれば、対比することができて有意義だと思う。
渡邊委員	養育費の確保については、民間の保険会社が、不払いの時に保証するサービスを開始したということも聞いているが、養育費に頼りきった生活も問題だと考えている。ひとり親となることを決断し、日々の生活の中での困りごとを、行政施策や地域の横のつながりなど、色々な形で支援していくことが大切である。 調査結果という形でひとり親の実態を発信して、色々な関係機関等が今後の活動を考えていけるような調査となればよい。
芹澤委員	養育費は男性が再婚すると払わなくなるケースも多く、それを防ぎにくい制度施策としての問題もある。養育費の問題は、共同親権などの問題も絡んで今後が見通しづらい。
横井委員	問１６に関して、５年前と今を比較すると、現在は生活困窮が深刻化している。例えば、選択肢１３は経済的支援について尋ねているが、包括的な表現であり、結果を施策に役立てづらいと思われるため、何か情報を補足する設問の設け方ができればよい。

事務局	現在の問 16 案は前回調査を踏襲した内容となっているが、この部会でいただいた意見や前回調査との連続性を考慮し、設問を再度検討させていただく。								
芹澤委員	身近な相談窓口についての選択肢を設けるとよいかもしれない。選択肢 8 に相談窓口があるが、窓口という表現は行かなければいけない義務感が強く、もっと気軽な相談先が欲しい人が多いのではないかな。								
石塚委員	問 16 の選択肢に子どもの学費に関するものがあれば、選択する保護者は多いと思う。								
事務局	【子育て支援に関する市民ニーズ調査（小学生）】 今回調査及び調査票案について、主に <table border="1"> <tr> <td>資料 2－3</td><td>今回調査票案（子育て支援に関する市民ニーズ調査（小学生））</td></tr> <tr> <td>資料 3－2</td><td>調査項目比較一覧表</td></tr> <tr> <td>参考資料 2－2</td><td>前回調査票（子育て支援に関する市民ニーズ調査（小学生））</td></tr> <tr> <td>当日追加資料</td><td>委員事前意見シート</td></tr> </table> を用いて説明。	資料 2－3	今回調査票案（子育て支援に関する市民ニーズ調査（小学生））	資料 3－2	調査項目比較一覧表	参考資料 2－2	前回調査票（子育て支援に関する市民ニーズ調査（小学生））	当日追加資料	委員事前意見シート
資料 2－3	今回調査票案（子育て支援に関する市民ニーズ調査（小学生））								
資料 3－2	調査項目比較一覧表								
参考資料 2－2	前回調査票（子育て支援に関する市民ニーズ調査（小学生））								
当日追加資料	委員事前意見シート								
芹澤委員	子どもの居場所づくりに関して、休日は一日中ゲームをする子どもが増えていると聞く。居場所としての子ども食堂は、子ども同士の遊びのきっかけとなっている側面もあり、そうしたニーズも拾える調査内容としたい。								
長岡委員	自身の子育ての経験からも、子どもの居場所がないことを実感する。学童、まなび教室も定員いっぱい、学校自体も教員の働き方改革の影響で放課後活動が減っている。子ども同士でコミュニケーションをとれる場の確保を、京都市全体で考えていただきたい。 また、大学生で母校へのボランティアを希望する人も多いが、両者を繋ぐ手段がなく、もどかしい思いもある。								
藤野部会長	本調査は設問数も多く、数字の記入など他調査と比べて手間がかかるが回収率は高い。安定した子育て家庭には関心の高い内容であるからだろう。生活時間までを記入させることは対象者に手間はかけるが、こうした生活時間の把握は非常に重要なものである。 ところで、ヤングケアラーについては、どこかの調査で設問として設ける予定はあるのか。								
事務局	ヤングケアラーについては、2 年前に本市教育委員会が関係機関等へ調査を実施しており、その結果に基づき、これまでヤングケアラーの周知啓発を行ったり、モデル事業としてヘルパー派遣等を行っているところ								

	ろである。このアンケート調査においては、現状どの調査票でもヤングケアラーについての直接的な設問は設けていない。
藤野部会長	無作為抽出であれば、外国籍の人へ調査票が送付されることもあるのではないかと。また、調査票を送った後に、調査票に関する質問受付等のフォローはあるのか。
事務局	調査は日本語版のみであるが、調査に関する質問を受け付ける問い合わせ窓口を設置する予定であり、そちらで一定のフォローはできる想定である。
渡邊委員	設問 16 に関して、現在小学生の発達障害（疑い含む）が非常に増加している。その悩みを聞き取るのは本問選択肢 9 だと思われるが、「発育」という広義の表現となっている。発達（障害）という表現を直接用いるかの検討は必要だが、子どもが小学生になってから気づく、発達に関する悩みを聞き取れる選択肢があればよい。
藤野部会長	何らかの仮説があるのならば、抽象的で、捉え方に幅のある設問よりは、その仮説に従い、具体的で知りたいポイントに絞った設問にした方がよい。調査結果がその後の施策立案等に活用されやすくなるかと思う。
藤野部会長	それでは、本日の審議はこれで終了し、事務局へ進行をお返しする。
司会	以上をもって、第 1 回「社会環境づくり部会」を終了する。